

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力のお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認、病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録や通常の診療で行った検査の後に保管されている残った試料（血液・細胞・排泄物など）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報や保管されている試料（血液・細胞・排泄物など）を利用することにご了解いただけない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。

研究課題名	栄養状態（C-reactive protein to albumin ratio: CAR）と術後補助療法完遂率との関連
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院 肝胆膵外科
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山 隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	(診療科名) 肝胆膵外科 (職名) 講師 (氏名) 船水尚武
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2024年 12月 31日
対象	2010年1月から2022年12月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方で膵癌に対して手術を受けた患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、発症時期、合併症、既往歴、身体所見、血液検査データ、画像検査データ、治療状況 等 (利用する試料) 通常の診療で使用した後に残った試料（血液・細胞・腹水・消化液・排泄物など）
研究の概要	膵癌に対する膵切除術を受けた患者にとって、術後補助化学療法は重要な治療法となっております。しかし、術後の合併症や副作用により半年間の期間を完遂できない方もいらっしゃいます。そこでどのような患者において、完遂率が低いのかを予測できる因子・指標があれば臨床上有用と考えられます。特に簡便で、侵襲が低い検査で予測できればなお有用性が高いものと考えます。通常の血液検査からえられる栄養状態を指標とした CRP/Albumin 値が予測因子になり得るかを評価したいと思います。
個人情報の取扱い	収集した試料・情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を削除いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管いたします。そのため個人を特定できるような情報が外に漏れること

	はありません。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。
お問い合わせ先	愛媛大学医学部附属病肝胆膵外科 船水尚武 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5327